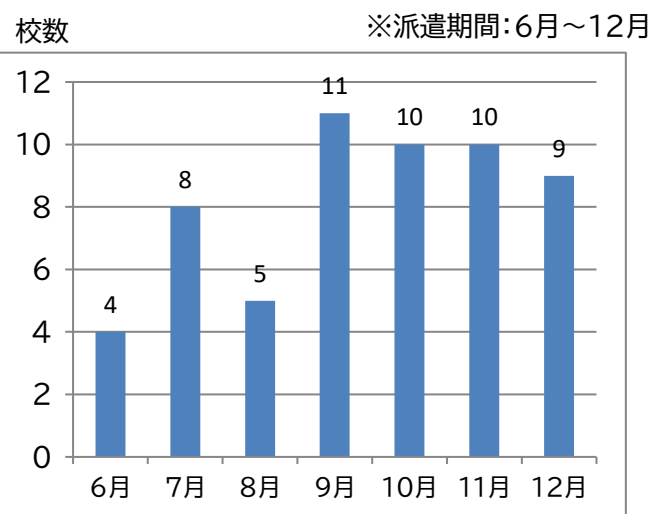
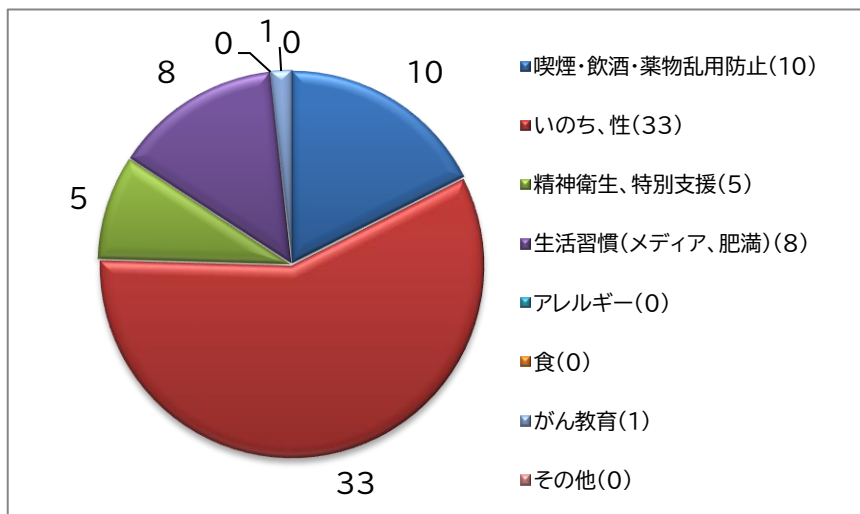

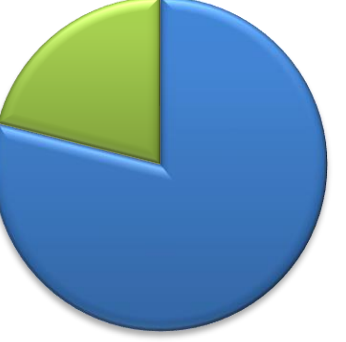
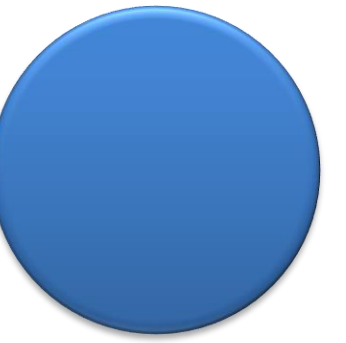


令和4年度 子どもの健康づくり連携事業 専門医の派遣（実践のまとめ）



実施校	専門医の領域	内容	対象	感想
1	小学校	放射線科	喫煙防止教室 5年生 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ○「自由」を守る一番簡単な方法は「最初の1本を吸わないこと」だとわかった。 ○身近な人がたばこを吸っていたら、ニコチンのことや禁煙のための薬があることを伝えたい。 ○「安全なたばこはない」ということと受動喫煙のことがわかった。
2		産婦人科	性のいのち 4年生	<ul style="list-style-type: none"> ○思春期には個人差があることを知って、一人ひとり違うことがわかった。 ○思春期の自分の体について、これからどういうことが起きるかわかった。月経について教えてもらわなかったら、「私、病気かも！」とあせっていたかもしれない。 ○印象に残ったことは、卵子と精子の大ききで、こんなに小さいと思わなかった。自分を大事にしようと思った。
3		精神科	生活習慣(ネット依存) 保護者 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲームを長時間してしまうので、親が買ったものを子どもに貸すという意識を持ち、親が管理するようにしたい。 ○子どもの自己肯定感が下がり、ゲームしか逃げ場がないということがないように、子どもの良い面を積極的に認めていきたい。
4	中学校	精神科	生活習慣(ネット依存) 全校 生徒	<ul style="list-style-type: none"> ○最近だらだら動画などを見ていて、することがなくてやめるのが難しいと思っていたが、講演を聞いて本当にすることがないのか探してみようと思った。 ○この講演を聞いて「自分に当てはまっている」と思った。授業に集中できず、他のことを考えてしまうことがあるので、家での過ごし方を変えたいと思った。
5		産婦人科	性・いのち 3年生	<ul style="list-style-type: none"> ○男だから生理とか子宮頸がんは関係ないと思っていたが、仕組みや症状を理解できて接し方もわかったので、優しく声をかけてあげたいと感じた。 ○月経困難症などについて、男子にも聞いてもらえてよかった。男子も心と体に悩みがあることを知った。 ○したくないこと、してほしいことを伝えることが大切だと感じた。 ○性について、はじめはあまり聞きたくなかったけど、未来のことを考えていくうちに自分でもわからないくらい集中して聞くことができた。
6	高等学校	産婦人科	性・いのち 全校 生徒	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の自分や子どものために、産婦人科に行くことをためらわず、自分の体をもっと大切に生活していきたいと感じた。 ○多様性を認められる人になりたい。様々な場面で、性別で分ける必要がないような過ごしやすく、よい世の中になってほしい。そのためにももっと理解を深めていきたい。
7		精神科	精神衛生 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ○発達障がいについて理解を深めることができたとともに、衝動性の原因についてストーリーを見出してアセスメントすることが何より重要であることを学んだ。 ○次回機会があれば、本校生徒についての事例検討会も行っていたきたい。
8	特別支援学校	産婦人科	性・いのち 保護者 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ○将来、性被害にあわないように今日の話覚えておきたい。 ○体のことについて相談する場所があるということがわかってよかった。
9		産婦人科	性・いのち 保護者 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ○相談しにくい性のこと。講師のお話を聞き、凝り固まった頭がほぐれていくのを感じた。性のことは「親」しか…と思っていたが、考え方を少し変えるだけで子どもと気持ちを共有することでハッピーになれるのだと思った。子どもが幸せになれるよう「依存先」をたくさん増やしていこうと思った。(保護者) ○一人の人間としての「生」と「性」は切り離せないと改めて気づかされた。「生まれてきた自分」はそれだけで価値がある存在、人間だという一番大切なことに立ち戻って子どもと関わっていききたい。(教職員)

令和4年度 子どもの健康づくり連携事業（専門医の派遣）報告書より

<p>健康課題解決について</p> <p>■有効 ■有効でない ■評価なし</p> <p>100% 0% 0%</p> 	<p>○専門医から正しい知識や最新の情報をわかりやすく説明していただくことで、より充実した学習をすることができた。</p> <p>○事前に復習も兼ねて二次性徴について復習を行ったが、自分ごとになっていない児童が多数いた。その際に児童から出た質問にも丁寧に答えていただき、これから自分の体に起こる、または今起こっている変化について、不安に思っていた児童も不安が解消したようだった。それぞれの心に残った内容は違うが、自分や周りの体や命、性について考えるきっかけになったようだ。</p> <p>○二次性徴に伴う心身の不安、妊娠、出産等の性の知識だけでなく、性的マイノリティー、性感染症予防等について教えていただいたことで、自分にも周囲の人に対しても尊重し合える生き方を学んだ。</p> <p>○本校の課題の一つになっているメディアとの付き合い方について、親子の関わり方を含めて具体的に実践したくなる方法を紹介してくださった。</p> <p>○児童の感想に「これまでメディアと心と体の成長に関係がないと思っていたが、大きく関係することがわかりルールを決めて、つき合っていきたいという言葉が複数あり、有効だったと考える。</p> <p>○発達障害に関する最新の知見を習得できたとともに教職員の困り感である衝動的な生徒への対応について具体的に教えていただいた。</p>
<p>校内の組織づくりについて</p> <p>■有効 ■有効でない ■評価なし</p> <p>79% 0% 21%</p> 	<p>○年間計画の中に位置づけて、役割を分担することによって校内体制の充実を図ることができた。</p> <p>○管理職や担任、養護教諭で相談し、学年に必要な内容を検討し、講話をお願いすることができた。検討した内容も適切であり効果的な講話を聞くことができた。</p> <p>○いのちの学習年間計画に基づき、講師との連絡調整は養護教諭、準備・運営は健康安全指導部を中心に学年の先生と連携して実施できた。</p> <p>○保護者と教職員が一緒に聞き、講演会後の懇親会で話し合ったことで、メディアコントロールについて、同じ方向で児童へのアプローチを考えることができた。</p> <p>○今後特別な支援を要する生徒に対して、教職員間で共通した認識と支援方針で対応にあたることを期待できる。</p> <p>○指導部において計画立案を行い、当日は学年部で運営を行うなど、組織的に取り組むことができた。授業参観日に親子学習という形で実施することで、親子一緒に健康課題について考える機会になった。</p> <p>○外部講師を招いて実施する性教育の有効性を校内計画に位置付け、どの学年も系統的に命「いのち」について学ぶことができるよう、この事業を通じて推進するよい機会となった。</p>
<p>校外の関係機関との連携</p> <p>■有効 ■有効でない ■評価なし</p> <p>100% 0% 0%</p> 	<p>○この事業を通して専門機関との連携をとることでスムーズに運営することができた。</p> <p>○専門医の立場から体について様々な説明をしていただき、学校では詳しく教えない内容も丁寧に教えていただけたので、性や体について考えるきっかけになり、子どもたちにとってとてもよい経験になった。</p> <p>○事前の打ち合わせを丁寧に応じていただき、学年の実態や学年からの願いや要望、事前アンケートをもとに生徒に寄り添った内容を盛り込んでくださった。</p> <p>○講演会后、個別に困り感のある児童について、専門医が教員からの相談を受けてくださった。医療機関につなぐタイミングや保護者との関係づくりについて助言してくださった。</p> <p>○2年にわたり同じ講師の講話を拝聴する機会を得たことにより、保護者も学校も「依存先」が一つ増えたと思う。地域の専門医に本校の実態を知っていただけたことや産婦人科受診のハードルが下がったことは大きな成果であったといえる。</p> <p>○メディアコントロールについては、中学校と連携した取り組みを行っている。今回、地域の医師とつながることができ、児童と保護者だけでなく、教職員も何かあったら頼ることができる存在ができた。</p> <p>○市内中学校で継続的に性教育講演を実施している産婦人科医と連携を取り、小学生対象の内容に合わせて講演いただき、外部講師の説得力があった。</p>